次の一歩への糸口

区長として災害に向き合う

地域おこし協力隊 齋藤剛司（さいとうたけし）さん

「立派なことを言ってもしょうがないから地道に泥臭くやっていく。」

その言葉通り、
震災後大津町内の店を巡り、
開店状況などを発信していた齋藤さん。
それは地域の皆さんに
次の一歩を
踏み出してもらうための
メッセージだった。

避難所での支援

前震時は自宅でした。揺れが収まり「役場の様子を見に行く」と妻に伝え出かけると、すでに多くの職員が集まっていました。避難所を開設することになったので私は子育て・健診センターの避難所開設の手伝いをしました。真っ先に職員の人に提案したことは、建物内の電気をすべて灯して避難してきた人の目印となるようにすること、余震が起きた時にすぐ外に出られるよう土足で施設内に入れるようにしてほしいということでした。東日本大震災を経験した、その時の記憶が残っていたのだと思います。

避難者支援をしていましたが、翌日には避難者がかなり減り、自宅に戻りました。そして本震。すぐに健診センターに戻りました。建物や車中泊者の見回り、簡易トイレの設置、食事の配食などの手伝いを5月9日まで続けました。

不安を持ちながらも行動へ

私は「特産品開発」や「農産物加工商品の活性化」をするために大津町に期限付きで雇用され、神奈川から夫婦で移住してきました。避難所の支援を行いながらも、「町はどうなってしまうのだろう」とか、「我々夫婦はこのまま熊本で生活していけるのだろうか」といったことを漠然と考えました。地震で産業発展どころではない状況でしたから。しかしあの混乱した中で、不安を抱くだけでは何も状況は変わらないので、今、自分に出来ることをやろうと思って行動を始めました。

日常を取り戻す支援

私は町内のお店を巡り、お店の開店状況や品数の状況などをSNSを通じて発信していました。朝9時頃から回り始め、一通り終わるのが正午近く、その後、情報をSNSで流しました。避難所にはそれを印刷して置いてもらいました。買い物が出来る場所だけでなく、居酒屋さんなども開いていることを伝えたいと思っていました。皆さん、被災者ですが、「自分たちは被災者だから」と受け身になり、支援だけに頼ってしまうと、日常への一歩を踏み出すことが難しくなります。買い物が出来る、さらに飲みにも行ける環境が戻ってきている状況を知らせ、皆さんが普通の生活を取り戻していくことが支援として重要だと思ったのです。

自分に出来ることから

今回の震災で被災はしましたが、被害の大きい市町村に比べると町はまだ余裕があります。そもそもの業務である「特産品開発」や「農産物加工商品の活性化」も復興に向けた取り組みだと思っています。あまり立派なことを言ってもしょうがないですから、泥臭くやっていきます。地道な行動が町の発展の糸口になるかもしれないので、コツコツやっていくのみだと思っています。

外牧区嘱託員 阪田一孝（さかたかずたか）さん

「私を頼って声をかけて下さることが励みでした。」

４月に区長になったばかりの阪田さん。
外牧区は地震被害に加え、
６月には豪雨被害にも見舞われた。
住民からの
「どうすれば良いか」との問いかけに
地区を守らねばという**使命感**で
区長として**判断**をしていった。

地震後の対応

前震時の被害は少なかったのですが、16日の本震時は、強烈な揺れで家から外の道路に飛び出しました。ブロック塀が倒れて道路は通ることが出来ない状況になっていました。家族には近くの県道に行くように伝え、私は集落の状況を見に行きました。住民の多くが、近くのグラウンドに集まっていて、地区内の5人の組長さんたちを通して、住民全員の安否を確認しました。その夜は防災用に準備していた発電機でグラウンドを照らして皆で車中泊をし、夜が明けてから地区全員で町運動公園球技場に避難することにしました。

困難を地区で乗り越える

スポーツの森には2、3日ほどいました。地区に戻り、4月20日頃から地区の公民館で炊き出しを始めました。皆さんが自宅を片付け、暮らせるようになるまでの10日間ほど続けました。炊き出しは、私がお願いして女性メンバーに協力してもらいました。外牧区は住民の協力があって、地震直後の困難を乗り切れたように思います。

追い打ちをかけた豪雨被害

6月後半の豪雨でもこの地区は大きな被害を受けました。崩れた土砂が雨水をせき止め、その水が土石流になり大量に地区に流れ込んできたのです。テレビでも絶え間なく「外牧区、避難指示」という情報が出ていたので、避難するよう声をかけに回っていましたが、途中で消防団員から制止され、避難していた町運動公園球技場に戻りました。土石流は床上浸水2軒、床下浸水12軒とひどい被害をもたらしました。地震から地域を復興させようとしていた矢先でしたので、辛かったですが、住民は全員無事だったのでほっとしました。

頼られることが励みに

私は4月に区長になったばかりでしたので、今回の災害時には、何をどうしたら良いのか全くと言って良いほど分かりませんでした。しかも生まれて初めて経験するような大災害でしたから、なおさらです。不慣れでしたが、それでもこの地区の責任者なので、住民の皆さんから「どうしますか」「こうするのはどうですか」と判断を迫られるわけです。その度に大きな決断をしなければならず責任を感じました。

区長という役目は大変でしたが頑張ることが出来たのは、住民の皆さんが私を頼って下さったからです。私を頼って声をかけてもらったことが励みになりここまで行動することが出来たと思います。

今後は、この地区も復興に向かわなければなりません。町も厳しい中で、「あれもしてくれ、これもしてくれ」と要望だけをするわけにもいかないでしょうから、町と一緒に穏やかにですが確実に前へと進んでいくことになるだろうと思っています。今後も皆さんに頼って頂けるよう頑張ります。